

わが街・わが地域の史跡・遺跡を訪ねる（6）

葺不合神社と「旧沖田の弁天堂」

我孫子市史研究センター 飯白 和子 いいじろ

前回は、上新木の旧地藏院（現上新木青年館）と「干体地藏」の話でした。今回は、下新木の葺不合神社と「旧沖田の弁天堂」の話です。国道356号の県営住宅沿いの坂を登りきった先の左側、国道沿いに鳥居が建っているのが見えます。これが葺不合神社の「一の鳥居」です。一の鳥居の入口付近には参拝記念碑や神社合祀記念碑、庚申塔などの石造物が多数あります。石段を下ると、かつては左側に弁天の池があり、この池に注ぐ小さな流れには石造の太鼓橋が架けてあり、この橋を渡り「二の鳥居」の石段を上るようになっていました。境内には、湖北の七つ井戸（大日の井戸）の一つ弁天の井戸もありました。明治期の神社合祀や、開発などにより近在から移された白山社・水神宮・妙見社・三峰社・蚕影山神社などが回遊式に祀られ大変趣のある神社です。鳥居・本殿・拝殿などが平成23年に市の文化財に指定されています。



葺不合神社鳥瞰図
教育委員会作成案内板より

●葺不合神社 下新木地区の鎮守で、もとは沖田社と称し字東台に所在。主祭神は、鶺鴒草うが葺不合尊ふきあへすのみこと。合祭神は、市杵島比売命いちしきしまひめのみこと、日本武尊やまとたけるのみこと、白山比売命はくさんひめのみこと。明治39年（1906）の神社合祀令により現在地の巖島神社（もと弁才天）に移設され、葺不合神社と改称されました。

本殿は、方一間・流れ造り・瓦葺。正面扉、周囲の板壁、脇障子、縁床下などの柱や板には、三韓征伐・神武東征などの日本神話を題材にした彫刻や様々な装飾が刻まれています。明治30年（1897）2月の建立で、彫刻師は後藤藤太郎（現龍ヶ崎市北方）。

拝殿は、旧弁天堂を拝殿としたものです。内陣の左に三峰社、中央は吹き抜けにして本殿を拝することが出来るようにし、右に厨子入りの弁才天が祀られています。



本殿の彫刻



拝殿（旧弁天堂）の装飾

●弁天堂 もともこの地は、「沖田の弁天堂」と呼ばれ弁才天が祀られていました。明治維新政府の政策で、巖島神社と改称されました。堂は、明和2年（1765）の建立で、同元年9月7日の「弁天堂奉加帳」によると、我孫子市内はじめ利根川を挟んだ近村の名が多数見られます。方三間・入母屋造りの堂の上部壁板部分に草花鳥獣の彫刻が施され、彩色されています。向拝柱には、麻の葉紋が刻まれ、創建当時の華やかさが偲べれます。

●薬師堂 二の鳥居の左側にある建物がおこもり堂で、木造妙見像や神像などがありました。その隣に薬師如来を祀った薬師堂がありましたが、現在は無くなっています。

●大師堂 四国八十八ヶ所の霊場を写し創られたのが、新四国八十八ヶ所相馬霊場で、ここは第77番札所の讚岐（香川県）道隆寺写しの大師堂です。本尊は薬師如来。お堂内の石造弘法大師坐像は、文化4年（1807）に奉納されたものです。